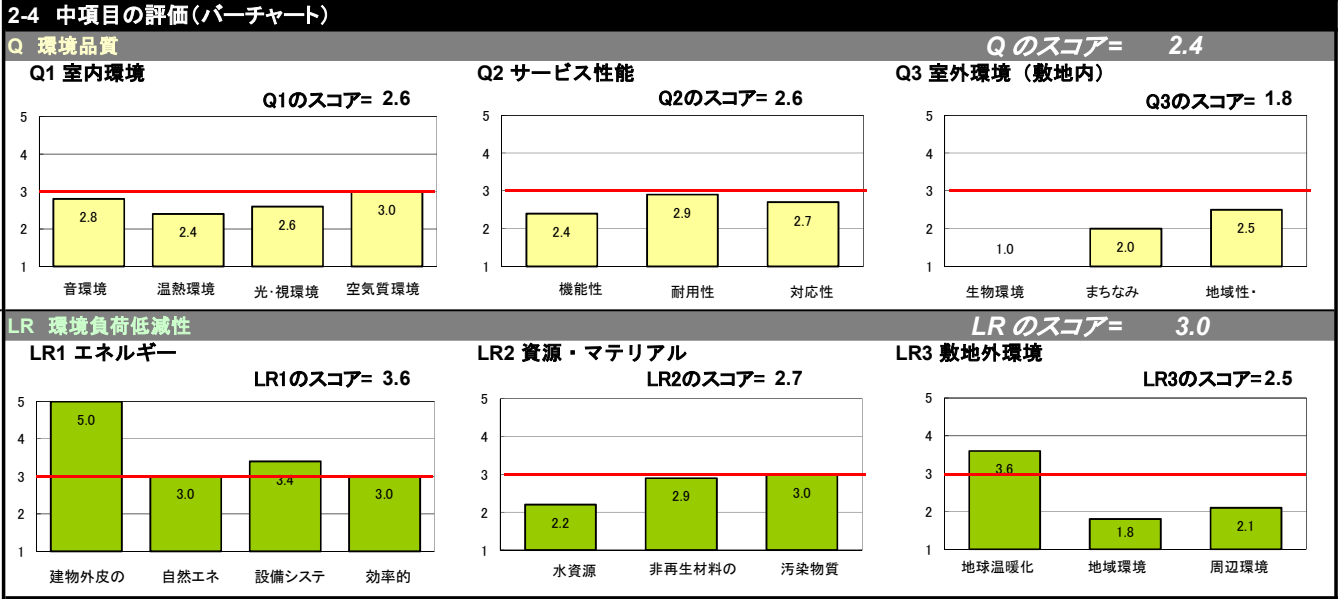
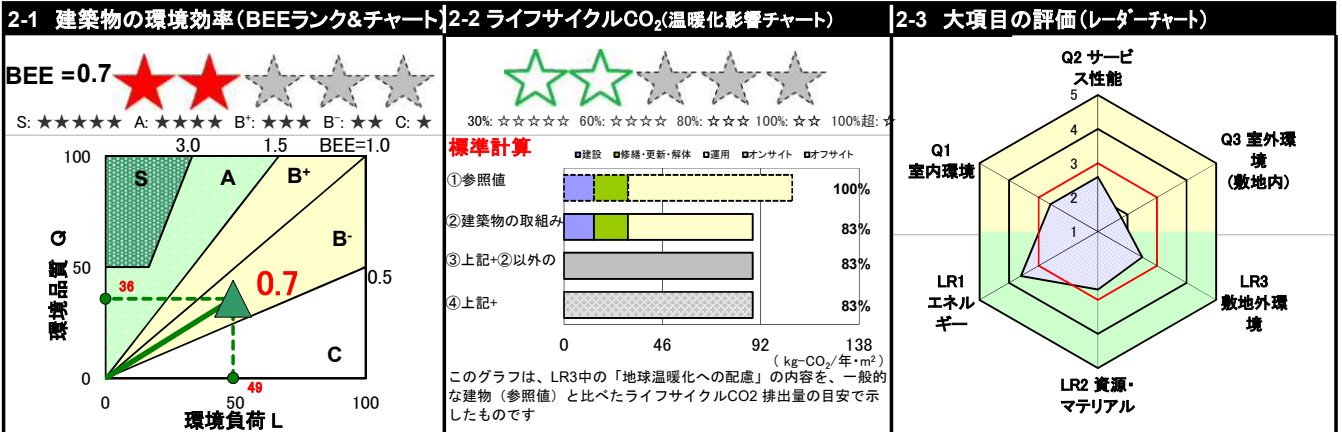


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 18008

建築物名称	武蔵中原駅構内事務所新築工事
建築主	東日本旅客鉄道株式会社 執行役員 横浜支社長 渡利 千春
建築物の所在地	川崎市中原区上小田中4丁目1295-4他
設計者氏名、建築士事務所名	岸元 孝之 東日本旅客鉄道株式会社 横浜 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,753.29m ²
用途	事務所
構造	鉄骨造
階数	地上4階
工事完了予定年月	平成31年7月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	武蔵中原駅構内事務所新築工事	階数	地上4F
建設地	川崎市中原区上小田中4丁目1295-4他	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	148人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	2019年7月 予定	評価の実施日	2018年5月22日
敷地面積	1,863 m ²	作成者	川崎容楊
建築面積	1,144 m ²	確認日	2018年5月22日
延床面積	2,753 m ²	確認者	高橋伸行



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目数 最高スコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	1.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.4/4.3	1.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	敷地周辺の風の状況を把握し、風下となる地域へ風を導く建築物の配置・形状計画とします	0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.5
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	ブラインドによりグレアを制御します	0.4/0.7	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	敷地周辺の風の状況を把握し、敷地内の歩行者空間等へ風を導く建築物の配置・形状計画とします	0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.65 BEI=0.76	3.6/5.0	3.6
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	LGS+GB、OAフロアを採用しております	2.6/4.7	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	敷地周辺の風の状況を把握し、風下となる地域へ風を導く建築物の配置・形状計画とします	0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.8
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	主要設備機器の更新必要間隔を15年としました	0.3/0.5	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	LGS+GB、OAフロアを採用しております	2.2/4.0	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	敷地周辺の風の状況を把握し、風下となる地域へ風を導く建築物の配置・形状計画とします	0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.65 BEI=0.76	3.6/5.0	3.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	敷地周辺の風の状況を把握し、風下となる地域へ風を導く建築物の配置・形状計画とします	0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.4**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	主要設備機器の更新必要間隔を15年としました	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.65 BEI=0.76	3.6/5.0	3.6

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.4	
Q1 室内環境							0.40		-	2.6	
1 音環境						2.8	0.15	-	-	2.8	
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音						2.6	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能						2.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境						2.4	0.35	-	-	2.4	
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-		
1 室温						3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能			W			3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式						1.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境						2.6	0.25	-	-	2.6	
3.1 昼光利用						1.8	0.30	-	-		
1 昼光率						1.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口						-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備					W	3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御					W	3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境						3.0	0.25	-	-	3.0	
4.1 発生源対策						3.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気						3.0	0.30	-	-		
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-		

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.6	
1 機能性						2.4	0.40	-	-	2.4
1.1 機能性・使いやすさ						1.6	0.40	-	-	
1	広さ・収納性					1.0	0.33	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応					3.0	0.33	3.0	-	
3	バリアフリー計画					1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30	-	-	
1	広さ感・景観					3.0	0.33	3.0	-	
2	リフレッシュスペース					5.0	0.33	-	-	
3	内装計画					1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計					3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						2.8	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		R			3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R			3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R			3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備					3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備					3.0	0.20	-	-	
3	電気設備					3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法					3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備					2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						2.7	0.30	-	-	2.7
3.1 空間のゆとり						2.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり					3.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ					1.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性						3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性					3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性					3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性					3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保					3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						—	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出				G	W	H				
						1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G						
						2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
						3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H				
						2.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	3.0
LR1 エネルギー					0.40	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	W	H		BPI=0.65	5.0	0.20	5.0
2 自然エネルギー利用	W	H			3.0	0.10	3.0
3 設備システムの高効率化	W	H		[BE][BEIm] = 0.76	3.4	0.50	3.4
4 効率的運用					3.0	0.20	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	
4.1 モニタリング	W	H			3.0	0.50	
4.2 運用管理体制	W	H			3.0	0.50	
集合住宅の評価					3.0	-	
4.1 モニタリング	W	H			3.0	-	
4.2 運用管理体制	W	H			3.0	-	
LR2 資源・マテリアル					0.30	-	2.7
1 水資源保護	W	R			2.2	0.20	2.2
1.1 節水					1.0	0.40	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.60	2.9
2.1 材料使用量の削減	W	R			3.0	0.10	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R			3.0	0.20	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R		-	3.0	0.20	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R		-	1.0	0.20	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R			2.0	0.10	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R		LGS+GB、OAフロアの採用	5.0	0.20	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	
1	消火剤		W		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		W		3.0	0.50	
3	冷媒		W		3.0	0.50	
LR3 数地外環境					0.30	-	2.5
1 地球温暖化への配慮	W			LCCO2=83%	3.6	0.33	3.6
2 地域環境への配慮					1.8	0.33	1.8
2.1 大気汚染防止					1.0	0.25	
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W	H	2.0	0.50	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25	
1	雨水排水負荷低減		R		3.0	0.25	
2	汚水処理負荷抑制		R		3.0	0.25	
3	交通負荷抑制		R		3.0	0.25	
4	廃棄物処理負荷抑制		R		1.0	0.25	
3 周辺環境への配慮					2.1	0.33	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	
1	騒音				3.0	0.50	
2	振動				3.0	0.50	
3	悪臭				-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					1.6	0.40	
1	風害の抑制				1.0	0.70	
2	砂塵の抑制				1.0	-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30	
3.3 光害の抑制					1.6	0.20	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	